

幼児教育長期派遣通信 1学期号

発行 令和元年9月4日

廿日市市立廿日市小学校 伊藤 尚子（派遣園：学校法人有朋学園 かえで幼稚園）

幼児教育長期派遣研修は、幼保小接続の推進を目的とした研修です。幼稚園での業務や園内外での研修を通して、幼児教育や幼保小連携・接続の理解を深め、指導方法の改善等に関する研究、カリキュラム開発に関する研究、事例研究、教材開発的研究等を行っています。1学期号では、園における子供達の一日の生活や園で大切にされている環境構成について紹介します。



1 1学期の研修内容

(1) 園内研修

3～5歳児の観察 保育者の援助の仕方を観察 研修会（幼児教育について、幼稚園と小学校との違い、幼児教育の歴史等、かえでQ&A、幼児教育アドバイザー訪問）

園内行事（進級式、入園式、たけのこ掘り、誕生会、田んぼの作業、会えるデー、園外保育、みんな子どもデー、川遊び、泥団子フェスタ、終業式、合宿保育、卒園生キャンプ）

(2) 園外研修

所属校において1年生の授業参観 幼児教育の理解に係る研修会①～③ 報告会①
接続に係る研修会①～⑤ 廿日市市幼保小連携協議会 廿日市市幼保小連携担当者会
園長等運営管理協議会

2 実践を通して

◎園児はどのように一日を過ごしているのか、かえで幼稚園を例にして紹介します。

園児の一日

8:05～ バス運行開始 登園開始

9:35 登園終了（バス最終便到着）

自由遊び

11:00頃～ 片付け①

クラスでの活動（創作、歌、話し合い等）

11:45頃～ 弁当

自由遊び

13:00頃～ 片付け②

クラスでの活動（読み聞かせ、歌、帰る準備等）

14:00 降園

14:50 バス最終便出発

荷物をロッカーに置いて、連絡帳を提出した子供から遊びに入る。長い子で一日に約4時間の自由に遊ぶ時間がある。



弁当を食べ終わった子供からまた遊んで良い。

※月曜日は弁当なしで11:00降園
※行事がある時等、保育の流れによって時刻が変わる日もある

遊び中心の生活

子供達は、各自の興味に従ってやりたいことを選び、主体的に遊んでいます。夢中で遊ぶ中で子供達は感じたり発見したり試行錯誤したり失敗を乗り越えたり人とかかわり合ったりとさまざまな経験をし、たくさんの力を身に付けています。そして、それらの力は、小学校以降の生活や学習につながるだけでなく、生涯にわたってその子を支えるものです。

乳幼児にとって「遊び」そのものが「学び」であり、遊ぶことが育ちにつながります。

◎それでは、園では、どのようにして子供達の主体的に遊ぶ姿を引き出しているのでしょうか。

①安心できる人的環境

園ではまず、子供一人一人が安心できる環境を整えています。環境には物的環境だけでなく人的環境も含まれます。年度初めには、今までに遊んだことがありそうなものが保育室に用意され、馴染みやすい環境が構成されていました。また、不安を感じている子供にそっと寄り添い、声をかけたり手をつないだりする保育者の姿が多く見られました。周りの環境に安心を感じられるようになると、子供達は主体的に遊び始めます。「安心できる環境でこそ子供達は主体性を発揮できる」ことを子供達の姿から感じています。



②主体性を引き出すような環境構成

子供がおもしろそう！と思えるような環境が整えられています。そして、子供がやってみたい！と感じた時にすぐ遊びに取りかかれるように必要な道具や場所が用意されています。

「屋根のぼり」
保育者たちが子供達の実態に合わせて手作りした遊具が数多く設置されている。

2012年新設の遊具「塔の塔」
サンタのままごとハウス

自然の地形をそのままに生かしてある「かえでの森」

「かえでの森でのタケノコ掘り」

屋外環境
建て待てで野原は、みんな大好き
平均台、タイヤ遊びなど
木登りできる木もたくさん
野球（ときどき）
いっしょに
組棟（おまじ）
2012年新設の遊具「塔の塔」
サンタのままごとハウス
斜面で遊ぶと足跡がなくなる
おはぎどんぐりで埋まる
森の裏でジュース作り
一本道走り、よし登り口、急坂登りなど
雑木林「かえでの森」には自然体験の種類がいっぱい

室内環境
工作コーナー
ままごと用ランドセル
大型積み木

「園庭のグミの木」
多種多様な木々、畑、田んぼ、ビオトープ等からも遊びが生まれる。

かえで幼稚園 HP より引用

「工作コーナー」 「ままごと用ランドセル」 「大型積み木」
保育室では、その時のクラスの流行りや行事によってコーナーの種類や配置が変わる。

3 まとめ

今回は、園での子供達の一日の過ごし方や園で大切にされている環境構成について報告しました。園での様子を少しでも知っていただき、小学校へのつながりを考えるヒントになればと思っています。また、幼稚園で第一に大切にされている、子供達が安心して過ごせる環境を整えることは、小学校でも大切にしていけるべきだと感じています。特に、新学期が始まる4月に、担任を始めとする教師が、児童の気持ちに寄り添った対応をしていくことや幼稚園とのつながりを感じるように環境を整えることで、子供達の不安を和らげることができるのではないかと考えています。

今後も幼保小接続の推進のために、研修を深めていきたいと思えます。

乳幼児教育支援センターから

幼児教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境（人、もの、空間、時間等）を通して行うことを基本としています。このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築くとともに、幼児の主体的な活動が確保されるよう計画的に環境を構成しています。まずは、幼児の発達や学びの様子や指導の在り方を知ることが大切です。